

海防私議補遺

押

海防私議補遺

武備兵法

			二四八二	和書門
	六	二	四	
二	二	七	四	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
八	二	四	八	和
九	二	二	四	書
函	冊	冊	號	類
一	五			
架				

內閣文庫	
番號	和 24814
冊數	2 (2)
函號	189 388





海防私議補遺卷下

淺草文庫

樗園 長山貫 著

一 西洋各國軍卒ヲ撰萃スルノ法ハ七十人ヨリ

一人ヲ撰三人ヲ組合セテ碌多ト云十六倭

ヲ設テ丁ト云四十八人也設テ二隊合スル

ヲエバ倭尼ト云エ巴倭尼四隊ヲ合メ核甚

ト云三百九十四人ナリ是ヲ二隊合メ列細綿

多ト云八百六十四人ナリ是ヲ五六隊合メ貌
里^リ瓦^{ツト}埜ト云六千人也今時西洋砲術ヲ唱フル
人碌多三人組シ以テ打方調練ストイヘ氏本
邦ハ古来ヨリ伍々ノ備ニシ農高氏ニ五人組
ト云テ耳ニ馴レ心ニ熟スルナレハ今更是
シ改メ廢スルハ不可也銃手ノ調練ニハ二人
ハ前ニ折シキ三人ハ背ニ立テ發銃スルヤウ
ニ調練メ可ナラン

一 西洋歩隊ニ三様アリ歩卒横ニ整々ト相並ニ
テ其厚サ三人ニ過ス其兩眼ニハ各余地ヲ余
ニテ互ニ相フレアハサル様ニス是ヲ横隊ト
云前後陸續ト相連リテ進ム者ヲ縦隊ト云又
廣ク散蔓シテ横縦ナラカル者ヲ散隊ト云此
陣法ハ一千七百四十一年^{寛保} 堀^テ撒^ウ鳥^五初^テ
此陣ヲ敷テヨリ西洋諸國相傳ヘテ今ニ至テ
不易ノ法ト定メ其内横隊ヲ以テ原隊ト稱シ

テ多ク是ヲ用フ十萬二十萬ノ大軍トイフ氏
此三隊ノ格ヨリ外ニ出ルヲナレ暗厄利亞ニ
テ一千八百八年^{文化}ニ二人隊ヲ備ヘタルヲ
モアレ氏其後瘳ニ夕リト見ユ此ノ如キ三人
ノ横隊ハ北方ヨリ古来ノ陣法ヲ守テ真鱗窟
翼等ノ備ニテ真向ニ押掛ルオハ忽チニ取色
ニレテ鳥銃スクメニアフヘシ

一西洋ノ正圓隊地球隊ト云ハ敵手詰ノ勝負ニ

掛リテ散戦スル片戦地狭クメ止ラシ得スノ
此隊ヲ作ル至テ堅固ニシユレ氏進退運動不
便ニテ攻撃ノ中敵四方ニアラサル故ニ空手
多シト云リ都テ西洋ハ鳥銃ノミノ戦ナレハ
圓隊ニテハ味方討アル故ニ尚不便トスレ氏
刀槍ノ手詰ニハ利アルヘシ

一西洋騎兵ノ備方モ歩兵ト同ク三様アリ其一
ヲ横騎隊ト云其二ヲ縱騎隊ト云其三ヲ散騎

隊ト云側騎照備遊騎皆此散隊騎ノ中ニアリ
横隊ヲハ原騎ト称シ多ク是ヲ用フ其厚サハ
二騎前後ニ相連ルノ法トス横隊ハ歩騎氏ニ
便ニメ連ニ変化シナシテ他隊トナリ能諸般
ノ戦用ニ適合スルノコトヲス敵ノ砲銃ヲ避
ルニ利アリテ味方ノ銃手ニ空手ナク又後崩
レノ憂ナケレ氏縦隊ニハ歩騎氏ニ常ニ多ク
此害アリ横隊ハ前面濶大ナレハ其一部ノ兵

ハ大ナル傷害ナシ直ニ砲車ノ処ニ押詰テ勝
敗シ決スル也和蘭ニテコントラスエ多利斯ノ戦ニ加農
一丸ニ敵兵三十五人ヲ斃ス又斯墨多里ノ戦
ニ加農一丸ニ魯西亞ノ兵四十二人ヲ打殺シ
タリ是縦隊ノ害ナリト云兵ヲ講スル者西洋
トノ戦法ニハ是ヲ以テ其利害得失ヲ考究シ
大砲盆下ノ害ヲ避ルル第一ノ要務ナリ
一西洋側騎ハモト側面ヲ保護スル騎兵ノ総名

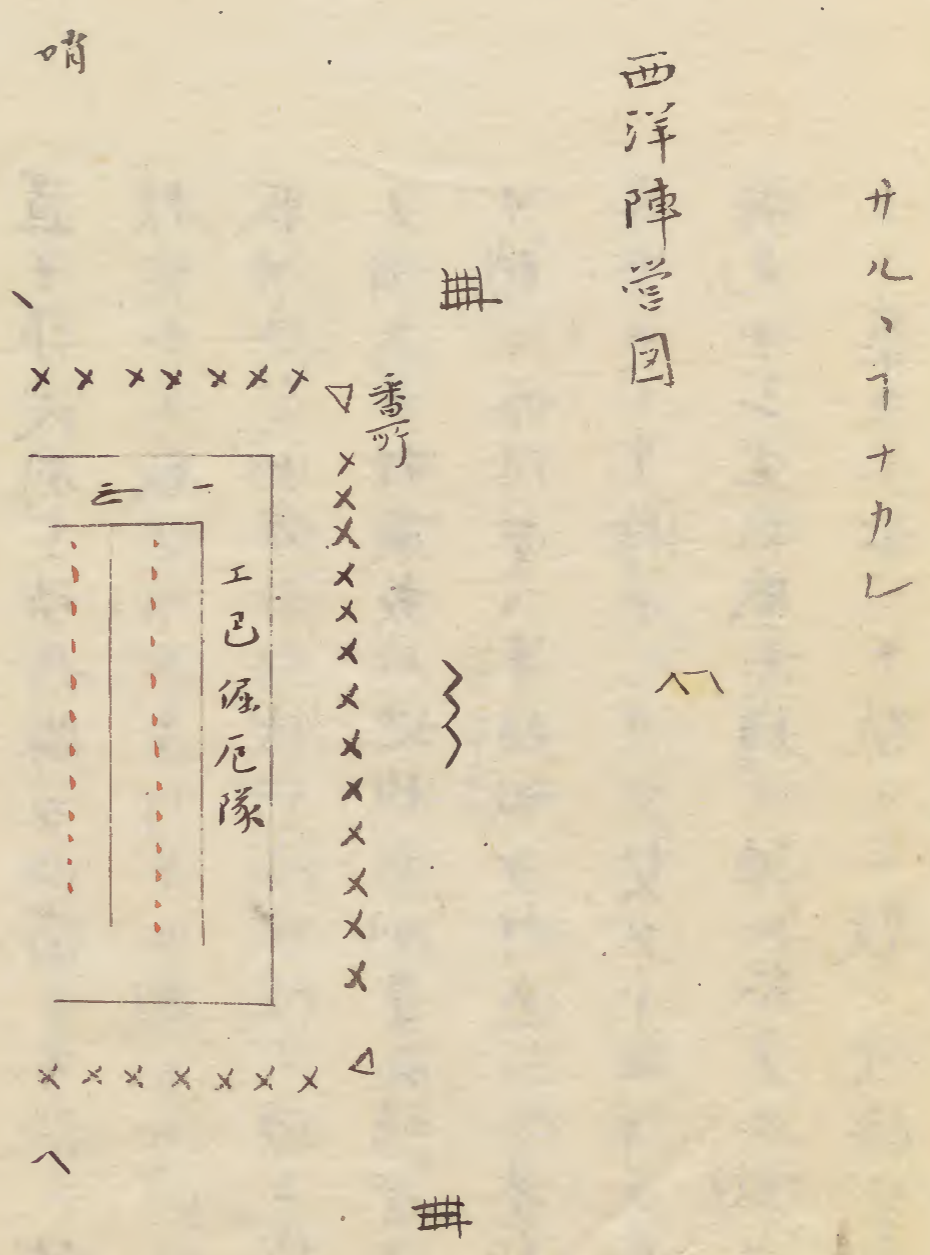
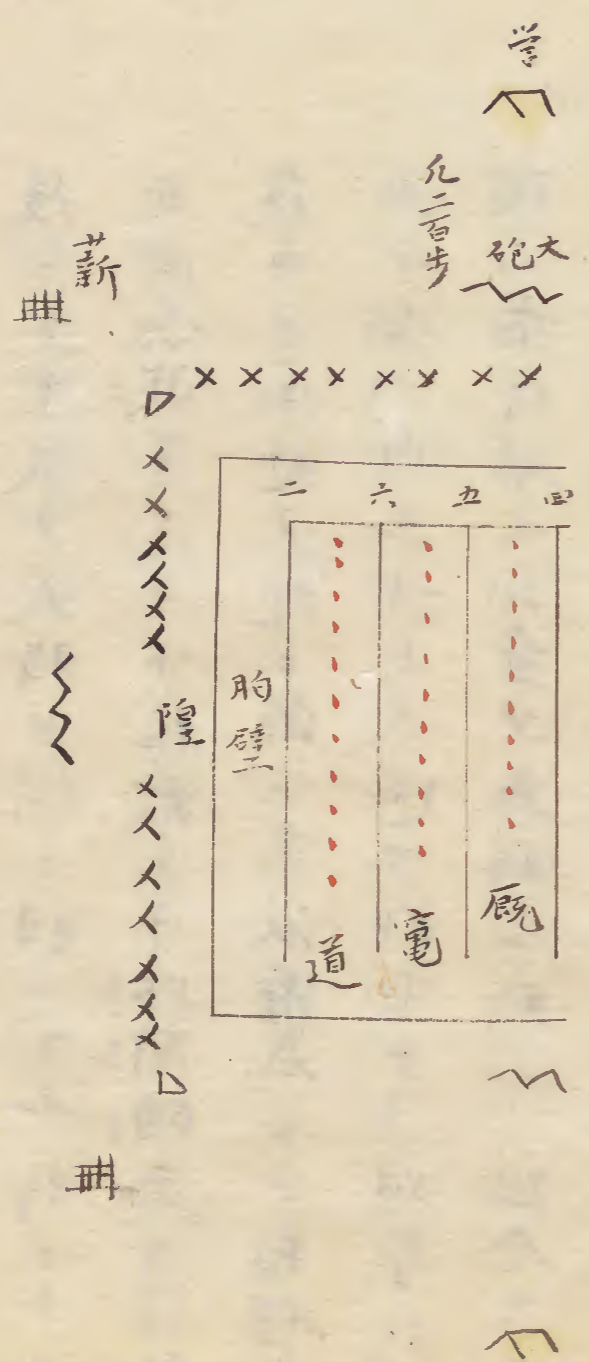
ニメ別ニ一小分隊ヲ分テ兩照ニ備ルナリ都
テ西洋人ハ横面ヨリカ、リ来ル敵ヲ恐ル、
者ニメ砲車モ多ク側面ニ備ヘテ是ヲ防ク
嚴重ナリ隊將モ子ヲウチテ狙撃手モ横部ニ備ルナリ
一陣場割シ定ルニ歩兵三人シ一組トシ一級騎
兵二騎シ一組トス是ニ地面方一丈八尺ツ、
シ設ク故ニ歩兵三十組ハ九十人也騎兵二十
一組ハ四十二騎也是歩騎相對スルノ数ニメ

行營野陣等ニ此地面割シ以テ陣地シ定ム又
列細綿多レチメント八百六十四人ノ隊ニハ其前後ニ七
百五十五歩ノ空地ヲ余シテ以テ戰士ノ疲憊
シ休息セシメ又ハ佇立シテ足ヲ休ムルノ場
トス

一陣取ヲナスニ三種アリ其一ヲ定徑營ト云敵
地ニ城砦ヲ取立テ根城トスルヲ云其二ヲ備
急營ト云敵地ニ入テ急ニ砦ヲ築テ兵シ叱ス

ルヲ云其三ヲ行軍營ト云假ニ野陣ヲ張テ止
宿スルヲ云陣營ヲ設ル地理ヲ見立テ人教ノ
多クニ依テ同教ヲ割渡スヲハ戰地學ノ主役
ニメ教師アリテ習熟サスル也今爰ニ一回
ヲ舉テ其概畧ヲ示ス外通リニシヨ所ヲ設ケ遠
ク候モノ騎シ出ニ檢地測量術ヲ行ヒ諸手ヨリ哨
兵シ出ニテ敵ノ不意ニ襲ヒ来ルヲ防ク又哨
營ノ陣所ヨリ百歩或ハ二百歩ヲ隔テ四方ニ

置ナリ又別ニ哨兵隊ヲ四面ニ出シテ伏兵ヲ
搜索シ又敵ノ哨兵モノシ打トル賊上陸ノ野陣ヲ
取ナラハ此方ニモ伏奸沙伏ヲ四方ニ伏テ賊
ノ哨兵ヲ打取或ハ地利ヲ測量メ哨營ヲ打破
リ賊ノ本陣營ヘ手シ白シ礮シ打込ヘシ本邦ニ用
ル本カ、リ捨カ、リヲ焚クト西洋ノ兵書ニ
所見ナシ宜ク威南塘ノ法ニ依テ土シ塹シウニ
口ニ築キテ前ニテ焚ヘシ敵ニ我陣營ヲ見透



一 狙撃銃ハ長サ二尺八寸許筒孔ハ七稜ニ作ル
 中リヲ命スル一尤密ナリ奧斯加独龍隊小騎
 總名百二十騎ノ内ニ十六騎アリ其隊ヲ西側ノ
 後ニオキ敵ノ大将ヲ撰ミ討ニスル騎ナリ魯
 西亞人波羅尼亞ト接戦ノ中比蘭的亞ノ狙撃
 銃手ヨキ地ノ理ニ備ヘテ波羅尼亞ノ指揮官
 五十人ノ内三十七人迄ヲ打取タリ狙撃銃手
 隊ハ本邦ニナシ宣フ五騎十騎ツ、組合セ散

隊ト成テ敵ノ將帥ヲ討取ヘシ

一 西洋礮隊ハ六門ヨリ十二門迄ヲ一隊トス加
 農ト忽礮ト二門ノ隊ヲ分チ礮隊ニモ歩礮隊
 ト騎礮隊トノ別ナリテ遠征ニハ騎礮隊ヲ用
 テ騎兵隊ノ中ニ加フ
 一 西洋陣營ノ制ニ三種アリ一ヲ街制陣營ト云
 市街ニ宿陣ヲ陳營ヲ造ル也ニヲ横制陣營ト
 云三八直角陣營ト云陣營ヲ固ムレハ兵ヲ分

テ近隣ノ村里ニ出テ林樹障壁等アルノ地ニ
テ屯營シナスニ便ナル所ニハ守兵ヲ置テ宿
陣セシム此ノ甘東^{カントン}涇^{キョウ}爾^ニ營ト云其近傍ノ里人
ヲ懐ケ兵糧馬草ノ乏カラサル様ニスルテ要
務トスト云西洋人上陸スル片ハ早ク其周圍
ニ林叢或岩壁等アルノ地ニハ本篇和議ニ論
スル如ク兵ヲ分テ是ヲ守ラセ伏陣沙伏ヲ四
方ニ伏テ賊兵ヲ打トルテ尤肝要也

一西洋人急ナル片野陣ヲ張テ露臥スルテ以息^ヒ
西^{アト}營ト云散隊ヲ出シテ樹木ヲ切倒シテ速
ニ逆茂木トナシ土ヲ撥揚テ胸牆トナシ或ハ
井泉ヲ索メ水ヲ輸送スルノ地ヲ見立軍馬ノ
飲料ニ充テ近隣賤民ヲ役メ薪菜ヲ得ルテシ
求ムト云ナレハ本篇ニ舉タル清野堡衛ノ術
ヲ蔽ニ三ヘシ

一歩兵騎兵礮兵是ヲ西洋ニテ三兵ト云其内步

兵ヲ第一トス是ヲ本隊ト称ス騎兵ハ步兵ノ
四分一ナリ礮兵ハ騎兵ノ四分一トス步兵ノ
人数少キハ戦闘ノ功力振ヒ難シ騎兵少キ
ハ戦ニ勝タル中敵ノ敗兵ヲ追討フテ迅速
ナラズメ大勝ヲ得難シ礮兵ハ堅陣ヲ打摧ク
要ニシテ多過レハ戦闘ノ勢ヒ鈍クシテ大利ヲ
得カズ是西洋兵学老練ノ者ノ論ニシテ三兵
各相应援メ其因ヲ失ハサルコトヲ專トスヘシ

一砲車ヲ排列メ敵陣シ十分ニ打破ルニ陣前数
百歩ノ地ニ短樹蕃蔓シ又ハ樹竹周圍ニアル
カ其它小兵陂池堤塘等ノ障碍アルノ地ハ
砲ニ害アリテ十分ノ功力ヲ逞スルコト能ハス
趨射直射ハ尚以テ施カタシ或ハ夜間其中ニ
敵兵埋伏メ吾軍士ヲ狙撃スルコトアレハ勉テ
樹竹其它障碍スルモノハ焚燒断截スルコトヲ
要ス是亦其地ノ賤民ヲ駆役スト云

一火薬ハ全軍第一ニ貴重スル所ニシテ是ヲ船中ヨリ引揚ルニハ二重ノ火薬櫃ニ入レ地車ニテ運送スルニ火ヲ恐ル、一甚ク車ノ上ニハ覆草ヲ掩ヒ其車ト車トノ間ハ十ニ五同ツ、シ隔テ、引ク一也若一車ヲ焚ル、其災後車ニ及ハサル様ニスル也其路次ハ務テ市町ヲ避テ田畠ノ間等シ引テ飛禍ヲ防キ城營ニ至レハ直ニ地倉ヲ設ケ良材ヲ組ニ麦藁ヲ

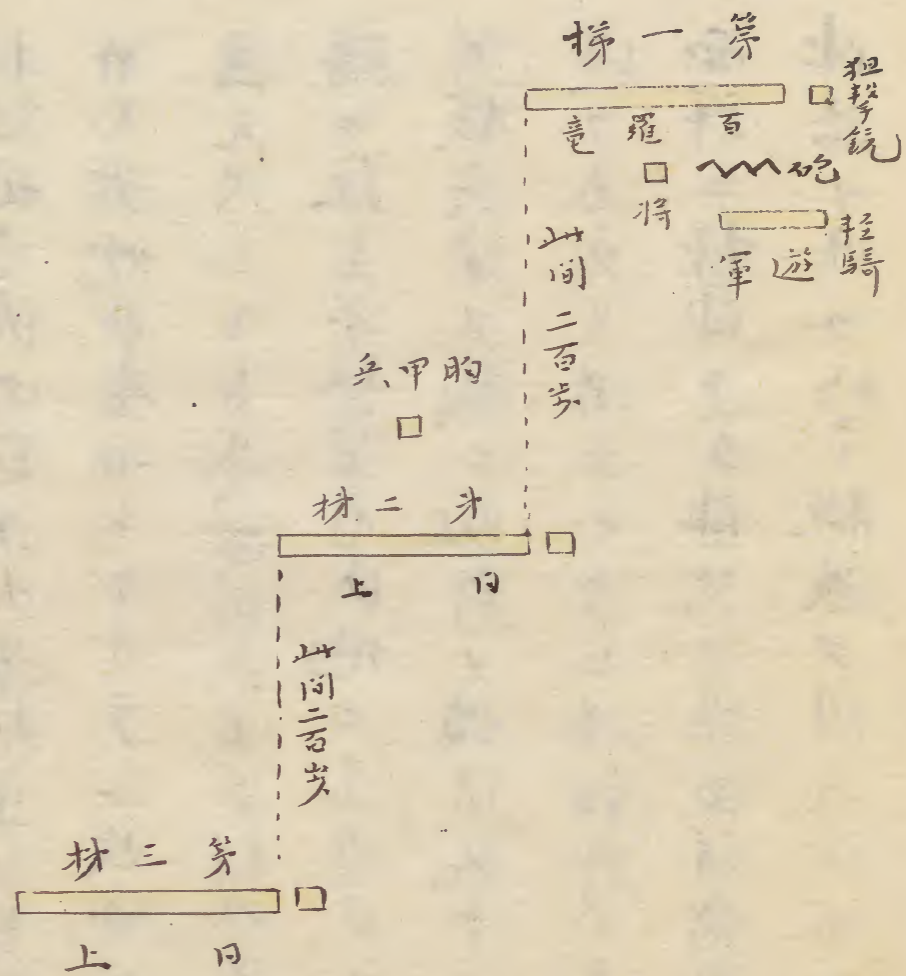
蓋ニ其上ニハ厚ク土ヲ掩ヒ大急砲ノ榴弾モ穿ツ一能ハス大雨モ添入スル一ナキ様ニ前ニ胸壁ヲ設ルナリ凡六十門ノ加農急砲カノン白礮モルタルニ用ル火薬彈丸等ハ一門ニ四百發ヲ定限トシテ備ル一也是ヲ載ル車ヲ百二十輛トス是ニ添車二十輛アリ外ニ銃鉏スキ藥臼ハカク等ノ諸具ヲ備ル車二輛合セテ一百四十二輛トス騎礮ヲ用ルニハ礮一門ニ馬四匹ヨリ六匹ニ至

ル故ニ六十門ノ騎礮ニハ二百四十匹ヨリ三百六十匹ニ至ル是ヲ指揮スル馬夫及ヒ宰領氏ニ人夫ノ掛ルヲナリ板野戦ノ中ニハ馬夫鞍馬ノ類ハ遠ク近傍ノ孤行隊中ニ退カシム或ハ最寄ノ砦營ノ内ニ入レ置テナレハ尤劣困ナルトニテ若敗軍スル片ハ大砲火薬ヲ併セテ敵ニ奪ハル、ノミナラス敵又後軍ヲ襲ヒ斂路ヲ断切り或ハ兵ヲ途中ニ伏テ榴彈ヲ

投シ地雷火ヲ設ケ火薬櫃車ヲ焚打ノ策アル中ハ大砲ハ虚器トナリテ一敗地ニ至ル、ニ至ルヘシト云是西洋兵家ノ説ニメ万里ノ波濤ヲ征テ不知業内ノ地ニ至リテ上陸シ四方ニ援兵ナク敵ニ防守ノ備アルトハ万々志ヲ逞フスルヲアタハサルヲ知ルヘシ

一西洋ニ梯陣ト云陣法アリ西洋諸國賞用スル陣法ナリコトニ概畧ヲ因ス

一向導散隊ト云ハ前備ノ十六分ノ一或ハ廿四分ノ一ヲ撰分テ向導兵トシ加刺別印銃ヲ肩ニシ費斯悉兎銃ニ門シ略ニ挿ニ先隊ヨリ凡二千歩又ハ二千四百歩ノ処ニ前行ソ前終ノ地理ヲ考ヘ敵ノ伏兵ヲ駈出シ敵ノ要害ヲ伺テ中軍ニ報告ニ或ハ陣營ニナルヘキ地理ヲ見立テ中軍ノ着到ヲマフ尤重任トス此向導兵ヲ打取テ敵ニ地利ヲ知ラシメサルノ肝

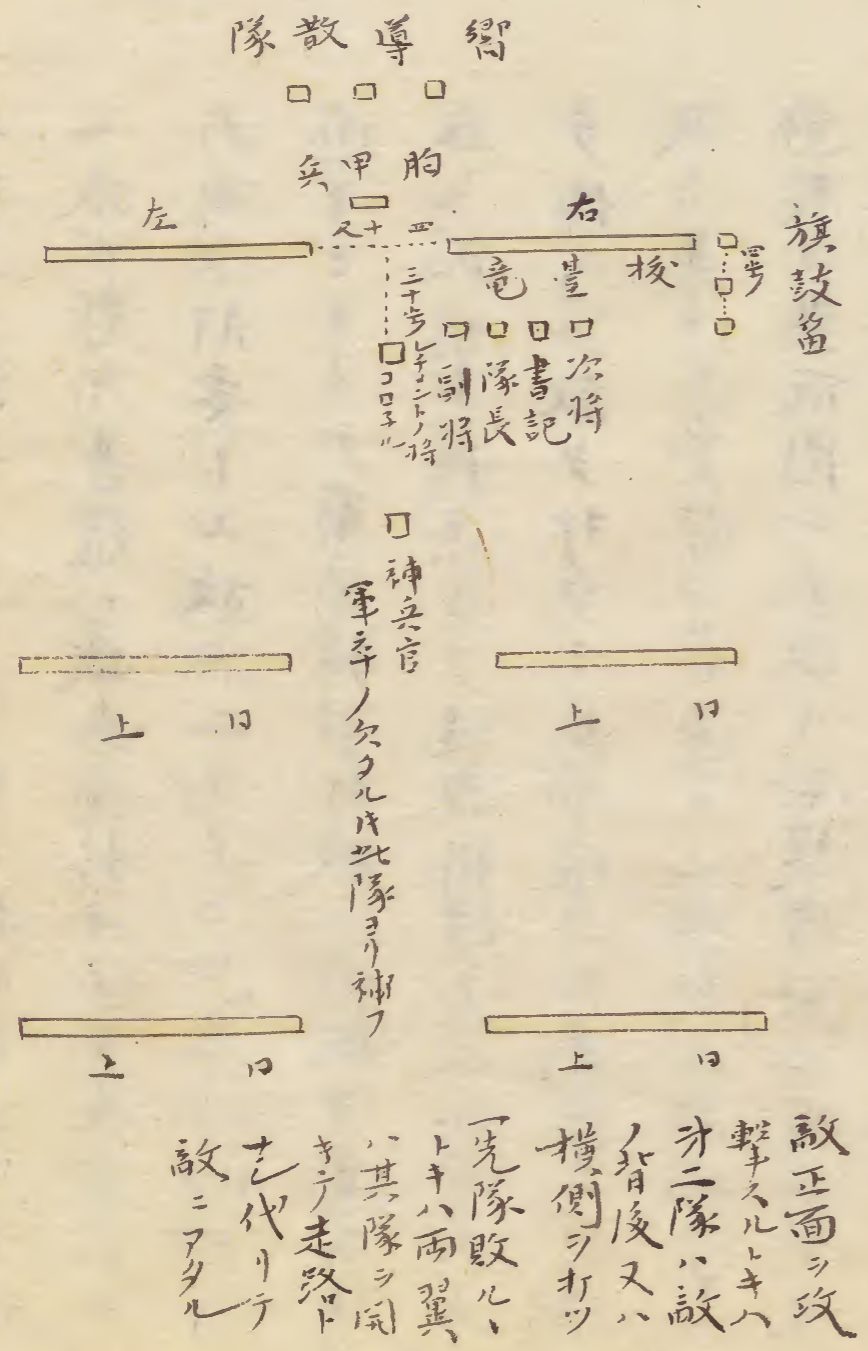


要ナリ

一先陣ハ全軍ノ四分一或ハ三分一ノ人数ヲ適
宜トス中軍ハ先陣ヨリ千歩或ハ二千歩ヲ隔
テ、進ム又全軍ノ十六分の一ヲ分テ遊軍ト
シ是中軍左右ノ兩翼ニ各二千歩ノ処ニ用
キ陣列シテ中軍ヲ保護ス胸甲兵ハ突衝シ策
一トスル故ニ尤驍勇ノ者ヲ撰ミ一隊ニ進
テ敵ニ中ル是向導兵ニ統キテ散兵トナリテ

戦フモノナリ蓋シ胸甲ハ西洋ニテ古昔是ヲ
製シ胸ニ掛テ銃丸ヲ防クノ具ニシテ中比廢メ
用ヒサリシニ近來仙郎西ノ那波列翁^{ナハレ}カ戦ヲ
好ミシ故ニ是ヲ再造シテ軍士ニ着用サセ費
斯^スク見^ル銃ヲ防ク為ニス其最尤重クメ銃銃ヲ
八十歩ノ近ニ受テモ洞貫ヤスト云時厄利亞
人ノ制ハ尤重クメ重大ノ履^ツヲ穿テハスケツ
ト一門^トハスタールニ門ヲ携ヘ六十發ノ火薬

一 西洋人常ニ用ル陣法アリ左ニ圖ス
 一 胸ニ着ク魯西亞ノ制モコレニ同シ

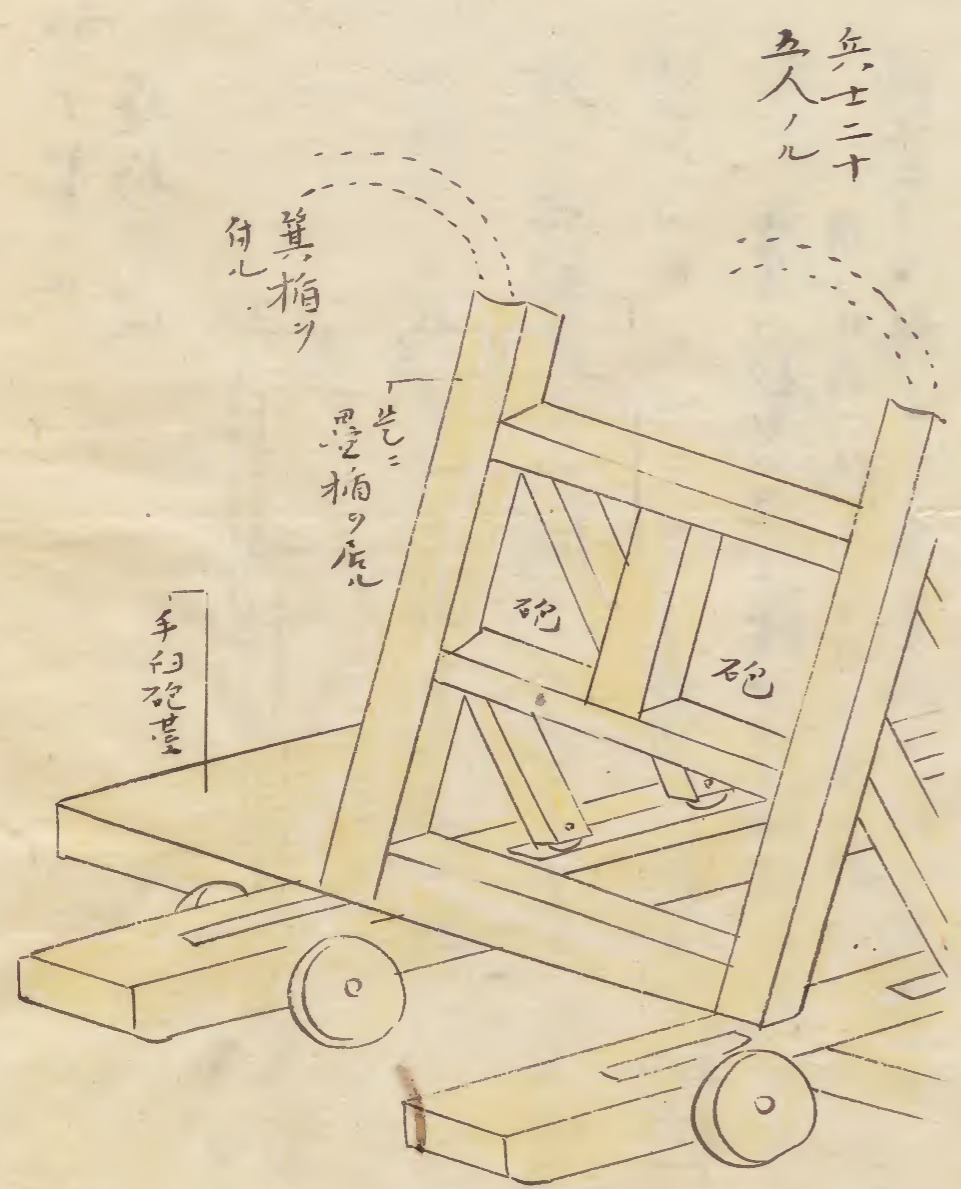


一林戦トテ敵林中ニ薨リ或ハ樹竹籬ノ中ニ備
ル敵ヲ打テ甚難シ敵兵ヲ林中ヨリ追出シテ
打取リ肝要トス故ニニカアヘル一町五十ノ
近キニヨリテ葡萄弾ヲ打放テハ敵ヲ追出ス
ヘシ又堤兵橋兵トテ堤ヲ隔テ或ハ橋ヲ扣ヘ
テ備ヘシ敵ヲ打テ甚苦難トス先敵ノ後詰
及ヒ其近旁ノ岩管ト通スル諸路ヲ断切リテ
前後ヨリ取圍ニテ攻ヘシ堤塘アル所ニハ大

砲ヲ其堤ノ上ニ居ヘカラス其後面ヲ切下ケ
砲ノ巢口ヲ堤ノ上面ニ當テ敵隊ヲ照準シテ
居ユヘシ此ノ如スレハ敵ノ丸ハ吾頂上ヲ逆
飛メ砲ニ中ルノ憂ナシ其周圍ニ墮シホリ又
深田等アレハ益々相殫モ水ニ落八テ害ヲナ
スヲ能ハス隱伏砲床ヲ造ルニハ廣野ニ用ル
ニヨル沙伏ノ如ク其地面ヲホル一ニ尺許ニ
メ其上ヲ搔アケ砲ノ前面ノ処ニ積上ケ其高

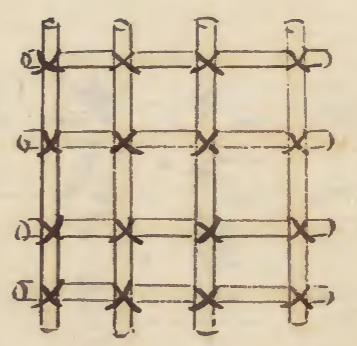
廿砲車ノ高低ニ從テ胸牆ヲ作ル是ヲ四方ニ
備フル片ハ敵モ容易ニ近ツキ進ムヲ能ハス
一大砲益下ラ多ク備ヘテ縦隊ノ中ハ打込ルハ
片ハ大害ヲナシテ人馬粉砕トナル故ニ是ヲ
避ルノ法ヲ索ルヲ尤緊要ノトトス只良地ヲ
撰ムシ第一トス「ウサントモ」ルシト云ハ西
洋ニテ急ナルオニ造テ丸ヲ防ク具ナリ獸毛
木綿ノ類又湿ヘル藁ヲ席ノ如クナシ袋ニ入

レ急ニ干楯トシ鳥銃ヲ防クアリ又「フリ」
テリシク「ト」云楯アリ藁ヲ編ミ車ニ重積シテ
大砲益下シ防ク又船ニモ用フ本邦ノ疊楯ハ
常ニ敷置テヨク固定スル故ニ砲丸ヲ防クニ
尤良ナリ又板ニテ造ル疊楯ハ鳥銃ヲ防クニ
ヨシ共ニ左ニ同ス

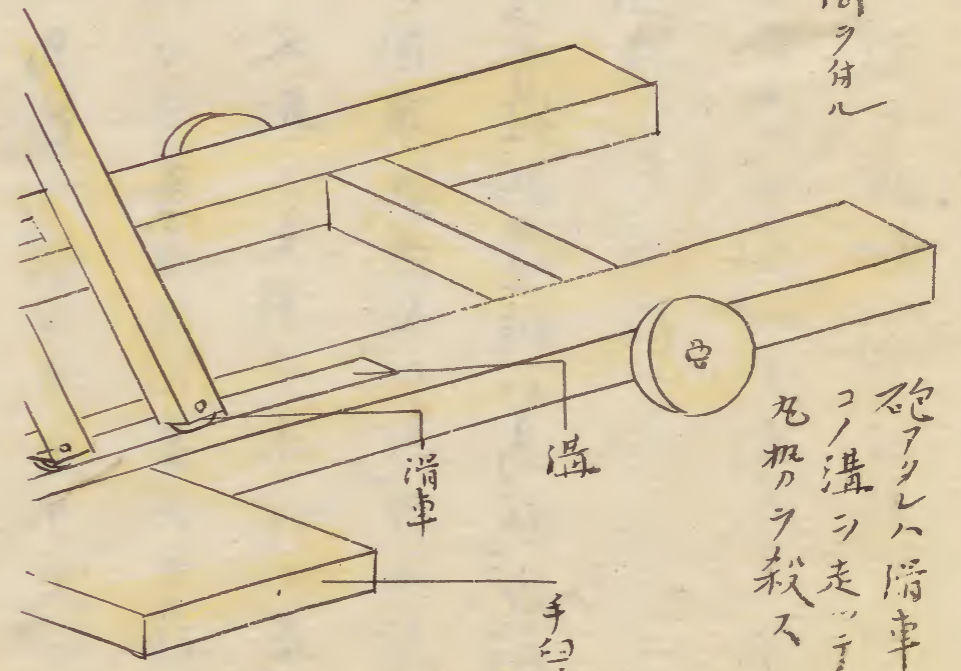


兵士二十
五人ノル

置桶之図

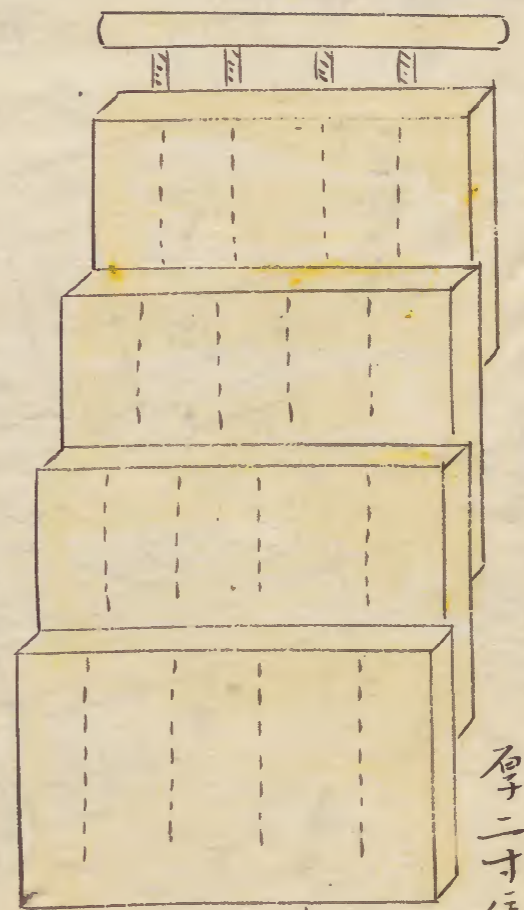


表ニ置桶ヲ付ケ裏ニ布圍ヲ付ル



砲ヲ引ルハ滑車
コノ溝ヲ走ラセ
丸枘ヲ殺ス

板ニテ製スル
疊箱之図



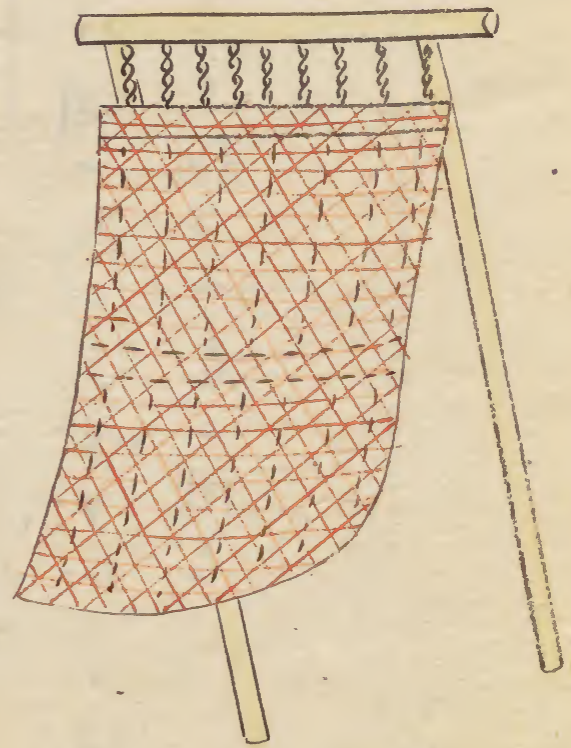
厚二寸位

此ハ尺

常ニ六板ヲ疊ニ三重子オクナリ
用フル内ハ鈎上ルヨク丸拵ヲ殺ス

一懸扉ト云楯アリ布團楯ニ同ニ異國ニテハ上
三分ノ処ニ板ヲ付着シテ是ヲ下ケルヤウニ
製スレ尺コレニテハ大砲ノ為ニ打切ラル、
故ニ西洋ニテハ網ニ入レテ下ケルナリ彈丸
シ防クニハ第一ノ物トス左ニ図ス

懸簾之図



一良地ヲ撰テ丸ヲ避ルニハ陣前ニ胸壁ニナル
ヘキ小丘ノ土塚アリト後ト左右ニ河渠ヲ

帯ニ或ハ林篁ニヨリ前ニ二重柵ヲフリ堤ヲ
築ク是彈丸ヲヨケルノ良地ニノ敵ヲ同近ク
引ヨセテキツメノ血戦ニ至ルヘキノ地ナリ
一板ニテ丸ヲ防クニハ其厚サ一五ル三掌四尺
五分ノモノニシテ十二斤ノ彈ヲ防クヘシ釘
銃ヲ防クニハ厚サ一掌五寸ノモノニテ足レ
リ木ハ松板ヲ良トス又石ヲ交ヘテ塗ル土塼
ハ厚サ六掌二尺ノ者ニメ十二斤ノ彈ヲ防ク

ヘケレ氏教癸ハ受難シ一ニ掌三尺五寸余十
レハ尤堅固也ト云リ本邦古来ノ戦法ハ弓鉄
シ一通リ癸ツヤ否ヤ敵陣ニ槍ヲ入レテ力戦
スルノ軍法ナレ氏西洋ニテハ大砲益々等ヲ
以テ敵ヲ数百歩ノ遠キニ打殺スノ戦法ナレ
ハ血戦メ討死スル一ハ勇士ノ本意ナレ氏弾
丸ノ為ニ数百歩ノ遠キヨリ打殺サル、一ハ
甚遺恨ナルヘシ希クハ砲術家此因ニヨリテ

尚参考ノ干楯ヲ製メ打試ラルヘシ其功ヲ十
スニ至テハ億万ノ死傷ヲ救ヒ海寇ヲ拂ヒ
神國ノ武威ヲ海外ニカ、ヤカサン一トコ、ニ
アリ有志ノ士忽カセニムヘカラス
一西洋ニテ避銃法ト避砲法トニツアリ避銃法
ハ百手同五十四ヨリ二百手ノ距度ニテハ干楯
ヲ以テ防クハハ害ナケレハ避法シ用ル一少
シ避砲法ハ敵ノ砲床ノ高低ヲ能測量ニ射撃

スル彈道ヲ知ルヲ肝要トス砲車ノ軸ハ平地
ヨリ高キ一^三手^三掌^四シ以テ度トス
夫ヨリ我星頭或ハ胸壁一テノ距度ノ間敷ヲ
測量スレハ砲準ヲ架スル度数モ明ニ知ヘシ
其彈道ノ線ヲ引テ標柱ヲ立テ測量盤ヲスエ
是ヲ洞視スル哨手アリテ令因ヲ定メテ避ル
ナリ

一西洋兵家ノ尤究思スル者ハ戰地學ナリ敵國

ニ上陸メ陰夷ヲ通曉ニカタク小林小丘懸崖
山川平野田疇ノ形勢ヲ考ヘ軍兵ヲ布列シ敵
ニ全軍ヲ見透サレテ敵國ノ距度ヲ詳ニ測量
シ砲礮ノ火藥功カヲ増減シ平地ニ在テ戰フ
中ハ輕騎散隊ノ二兵ヲ出シ虚ヲ顯シテ敵ヲ
アシラヒ誘寄セテ中軍ノ戰劇場ニ至ラシメ
縱隊ヲ不意ニ湧出スカ如ク押出メ圍ニ打テ
シ第一ノ戰法トス砲隊ハ猛烈ノ功用ヲアラス

ハシ堅陣鉄壁シモ粉ノ如クニ打撞クナレモ
其隊孤行トスヘカラス歩騎ノ二兵是ヲ保獲
シテ全切シ奏スル者故ニ三兵ヒトシノ相應
救スルヲ期ス礮隊ト從隊ハ歩騎ニ兵ノ正ニ
戰ハントスル寸迄ハ其形ヲ覆蔽シ或ハ樹木
ノ際ニ隠シ或ハ乾湍ノ中ニ伏シ急ニ露出メ
衆軍重隊ノ中へ打込ムシ良策トス暗瓦利亞
ノ礮兵隊ハ礮兵ヲ砲車ノ後ヨニ力カスレテ

其側面又ハ遠地ニオキ敵兵詔打来ル其適
宜ノ地ヲ量テ急ニ起テ連發ノ敵ヲ打破ルヲ
常トス

一風際列歇シガ突ルノ説ニ近世ノ野戰ニハ礮兵ノ
力ニ依テ全勝ヲ得ルヲ多シ爾後礮兵ヲ以テ
佐兵トナサス是ヲ主兵トスヘシト稱揚ス又
好番シガ人ノ説モ歩騎ニ兵ノ運動ハ礮兵ニ從テ
是ヲ定メ其進退ニ礮兵ニ委托スルヲ要

ナリトス 垣結ル^テ名^ルノ説ニハ防守ノ片ハ礮兵
シ第一ノ職トス 攻撃ノ片ハ礮兵ヲ第二等ノ
職トス 歩騎ニ兵ニ從テ進止動近スヘシ然レ
大礮隊ヲ組立ル寸ニハ礮兵ヲ以テ主職トナ
ス故ニ歩騎ニ兵ノ進退ハ是ニ從フヘシト云
的切ノ論ニ近シ

一佛郎西人ハ隱兵ヲ備テ敵ノ不意ヲ打テ血戦
スルヲシ常ニ企望ス 粗日本風ノ戦法ニ似タ

リ一千八百十二年^{文化九年}暗厄利亞ノ軍^{ラルゲ}貌^テ的
斯ノ地ヨリ敵陣ノ時佛郎西ノ兵^{コラドリ}許刺度里ノ
地ニ埋伏メ其後軍ヲ詭衣ヒ打ニ兩軍ノ際僅ニ
一小池ノ畔ヲ隔ツルノミ也 仏郎西ノ兵ハ列
細綿多ノ縦騎隊ナリ暗厄利亞ノ部將^{バハ}華^ハ別^ラ落
格急ニ指揮メ陣列ヲ固メ互ニセリ 詰テ一銃
ヲモ放ツニ至ラス白眼アフ片佛郎西ノ兵飛
込テ敵兵一人ヲ突殪ス是ヨリ兩軍入乱レテ

刀槍ヲ交ヘテ血戦ニ及シテアリ

一漢土ノ兵書ニ城ヲ攻ルヲ以テ下策トス本邦ノ兵家モ城ヲ攻ルハ五倍十倍ノ大軍ニ非サレハナリカタシト云其城取ノ法ハ僅ニ弓銃ヲ以テ城門ニ付ク敵ヲ狭間ヨリ横ニ射拂フノ用ヲ專トスルノ也攻兵ハ汲道ヲ断テ付城ヲ築キ柵ヲ作り地道ヲ掘リ櫓ヲ崩シ堀ヲ埋メ火矢ヲ射ル等ノ類ニメ大砲蓋下ノ攻

撃ヲ受シテ無レハ其防守ノ法モ大ニ異ナリ依テ西洋攻城法ノ概畧ヲ左ニ舉テ照考ニ便ス

一西洋攻城法ハ敵城ヲ取圍ニ先測量術ヲ行ヒテ敵城ノ要害礮場ニ設ケアル場等ヲ明ニ見透シ我諸礮ノ達スヘキ適宜ノ距度ヲ畫定メ胸壁礮床ヲ造ル指揮官アリテ鋏夫匠人コック匠人クイン等ノ諸ノ器械材木ヲ携ヘ各所ニ分賦シ夜間

ニ是ヲ造ル其畫定ニタル線路ヲ掘揚テ胸壁
ヲ造リモチテ白砲ホウキ忽砲カク常砲カクノ各砲臺ヲ築キ其後面
ニ火薬倉ヲ設ケハニ子束柴筒ユル薩ヲ編ム砲臺ニハ直
射斜射カタツ裸砲床踏没砲場等ノ差別アリテ大約
砲一門ヲ居ル臺場ニ工匠十二人ヲ一組トシ
三夜ニ是ヲ造ルヲ度トス砲手ハ一門ニ十二
人二門ニ十九人三門ニ廿七人ヲ配リ砲臺ニ
砲ヲ安置シ砲眼ノ照準ヤツラヲ正定スル住管成就

スレハ攻撃テ十分ニ逞フス大抵夜四十發晝
八十發晝夜二百二十發ヲ度トス

一東柴ハニ子ニ柴制筒ユル薩ハ戰場ニ緊要ノモノトス其
造方ハ新稚ナルヤキ榭抑ハニ棧等ノ柔軟ニシテ撓屈シ
易クメ水液シ含ムモノヲ緻密ニ組織シ大小
長短ハ時ニ依テ制スヘシ大砲ヲ排列スルノ
際ニ溝ヲ鑿リ是ヲ建テ仕切トス其厚サ大抵
一手三掌四尺ニ高サ一手五掌四尺九寸又ニ

手ニモ造ル其際ニ土砂ヲ埋メテ吾礮ノ焰火
飛散メ其側面ノモノニ害アルヲ防キ又肩脊
ノ覆蔽トメ敵ノ彈丸飛迸メ来リ觸ル、ヲ防
キ又我砲車ヲ遠隱シテ敵ニ見透サレサルノ
用トス

一胸壁ヲ急ニ作ルニハ布囊ニ土ヲ盛テ積ムシ
良トス一千七百八十一年天明元年義頼キヲラ刺尔答兒
ノ攻城ノ時胸壁長廿九百五十跨高廿及ヒ厚

廿三手七掌七柵一丈二尺四寸七分余ノモノヲ沙囊一
百六十万箇ニテ僅一夜ニ築造セリト云西洋
人ハ野戰攻城トモ胸壁ヲ第一トシテ砲ヲ防
クナリ

一攻兵已ニ胸壁砲臺ヲ築造スルハ十分ニ攻
撃シ遅クスル故ニ城兵ニ是ヲ支ヘ妨ケテ防
戦スルヲ尤注意スルヲ也或ハ攻兵ヲ欺テ其
始ニハ装薬ノ量ヲ減シテ砲發シ其射度ヲ弱

ク見セ城辺近クニ砲床諸倉ヲ造ラセカキテ匿散ヲ
建テ諸ノ器械物品ヲ集ルニ至テ急ニ大砲ヲ
多装メ是ヲ粉碎ニ敵ニ時日ヲ費サセ諸物ヲ
失ハシムルコトアリ

一攻兵一虎口ヲ打破テ乘入ル中ハ木石ヲ轉下
シ益々榴弾ヲ手投シ火囊ヲ抛チ又大桶ノ内
ニ硫黄豚白脂又ハ瀝シノ類ヲ塗タル小柴ヲ埋
メ榴弾ヲ收入メ投ケ長竿槍ヲ下シテ攻兵ヲ

刺シ勉テ破ルコトヲ持コラユルヲ專一トス

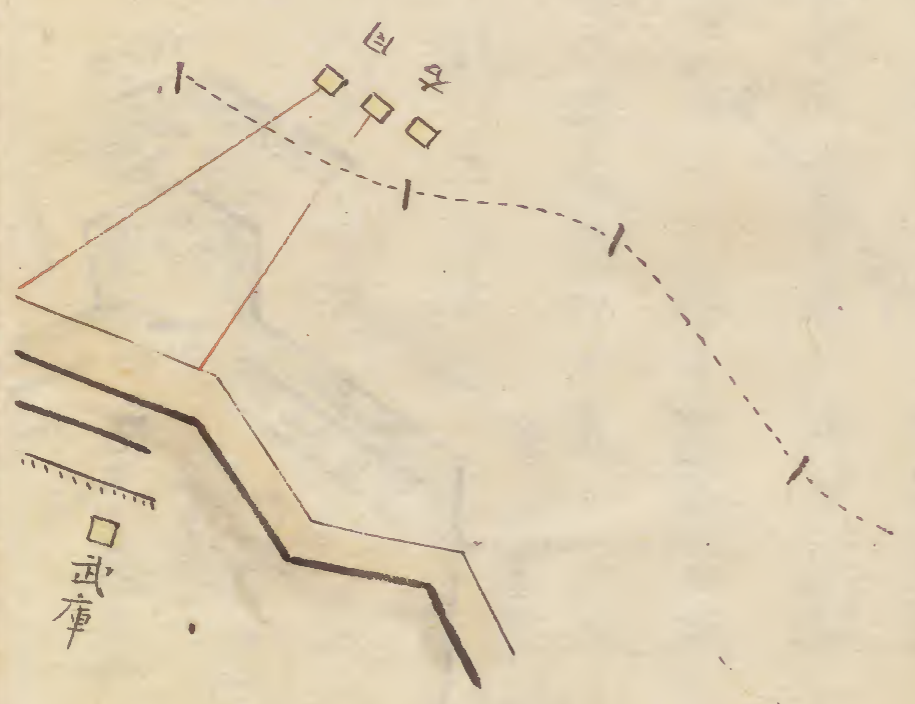
一砲臺ノ後ニ火薬倉ヲ作ルニハ砲臺ノ脚ヲ去
ルコト十五手四丈九尺三寸五分余ノ如ニテ乾燥ノ地ヲ

良トス其制甚大ニメ許多ノ火薬ヲ納ル若火
害アルコトハ諸ノ火具ヲ失フノミナラス其激
勢ニテ砲臺ヲモ指スルニ至レハ砲三門ニ一
倉ヲ設ケ十四時我時十發放スル夕ケノ火薬ヲ
納ム百也六其造方ハ其内面ハ積方ニ手六尺
五寸

八分ノ穴ヲ掘リ深廿底共ニ存シクメ上ニ屋
 余ノ架シ厚サ一掌三尺二寸ノ土ヲ掛ル
 一山城等ニテ埃垣ナル地ニハ手白礮シ多ク備
 フヘシ是礮ハ和蘭ノ礮兵總督利リス斯多ストナルモ
 ノ、始造ニシテ一千八百三十一年天保二年ノ陸
 戦ニ用テ大利ヲ得タリ因ハ本編ニ出ス

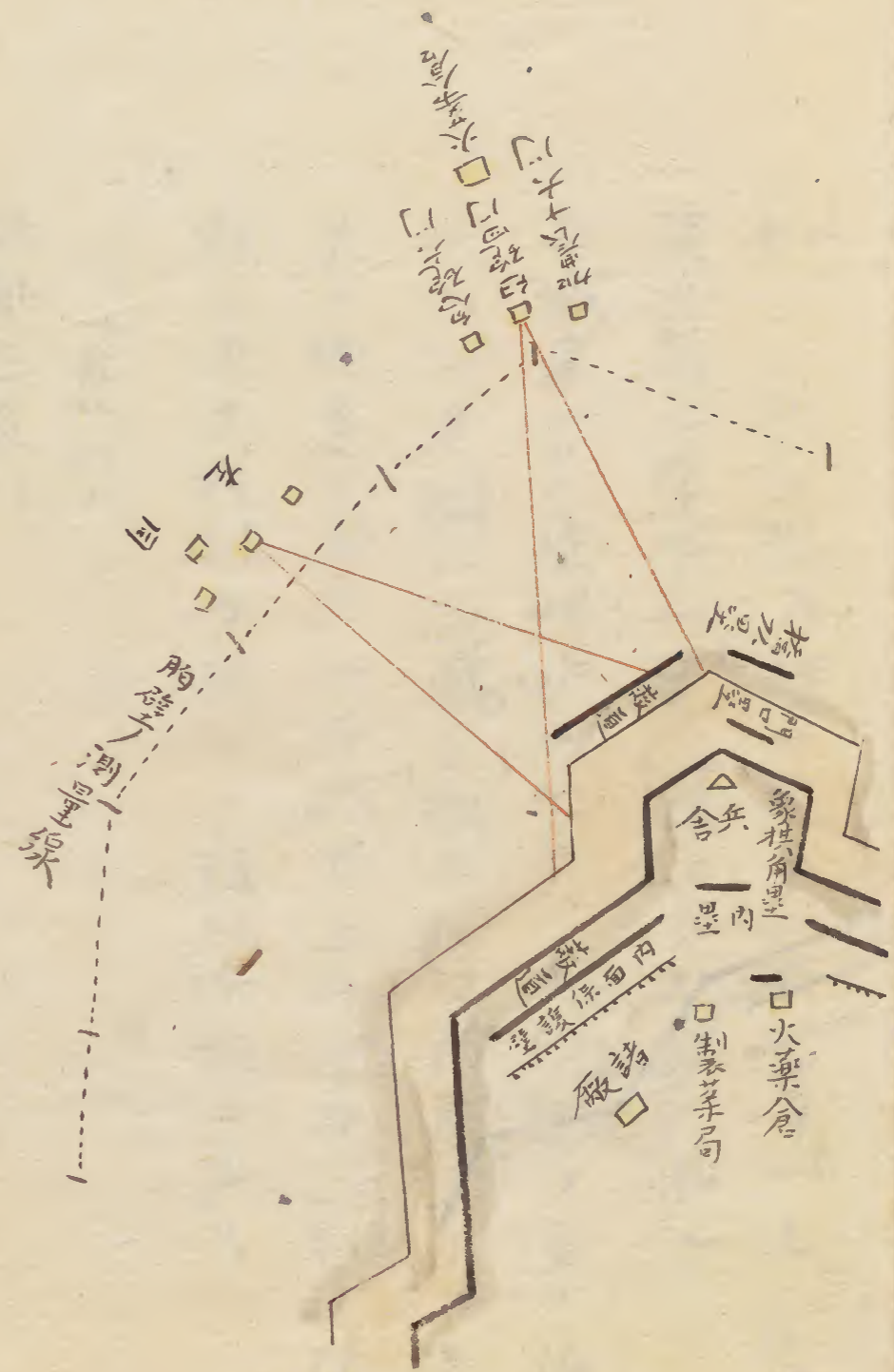
攻城之図

一角之図ス



一漢土ニ五里霧ト云テ火袋ヲ布袋ニ盛リ敵ノ
 掛リ来ル寸是ヲ風上ノ地ニ傾ケテ走り火繩
 シ以テ火ヲ点スル寸ハ忽チ雲霧ヲ起シテ五
 里ノ間ヲ真暗ニシ人馬ソノ氣ニフルハ
 両眼ヲ閉クテ能ハスト云
 其法

硝石 百斤
 硫黄 百斤
 炭 五十斤
 木屑 五斗
 松香 三十斤
 雞糞 一斗



狼糞 二斤

頭髮灰 五斤

砒 五斤

人清 一斤

一又風化灰ト云々毒烟ニメ人馬昏倒スルナリ

其法

走砂 一斤

鉄脚砒 五斤

硫黄 五斤

南星 二斤

半夏 二斤

細辛 二斤

甘遂 一斤

川烏頭 二斤

草烏頭 二斤

砒砂 二斤

丹皂 十斤

巴霜 三斤

斑猫 二斤

毒粉 二斤

銅青 四兩

右共ニ細末メ飛麴二十斤錫ニ入レコ

シ炒ル半熟ニメ群藥ヲ入ルト云

以上ノ毒霧烟ハ路上ニテ焚ナト、云フ迂遠

ニメ用フヘカラス西洋ノ毒烟法ノ如ク烟霧

彈ニ配合メ大砲ニ仕込テ打發スハシ斑猫鳥

頭ノ類尤用フヘシ是本篇私議ニ奉タル烟霧

毒灰彈ト参考スヘシ

一西洋人ノ戦法ヲ説クニ迂回ニシテ紙上ノ空談
ニ近キ者甚多シ今一説ヲ舉ク我陣營ヨリ打
テ出テ敵ヲ誘ヒヨセテ戦ハントスルニハ其
地形ヲ能見テ諸兵ノ性質ニ適ヒ此ニテ其十
分ノ働シナスヘキノ地ヲ撰ムヘシト云リ是
必勝ヲ期スルノ策ナルヘケレトイカンゾ敵
地ニ上陸シ諸兵ノ性質ニ叶フヘキノ地ニ因
ルヲ得ヘケンヤ若本邦ニ入寇スルト我ニ

許多ノ戦士アリテ地理ヲ明ニシ勇兵シ四方
ニ備ヘ切所ニハ砦ヲ構ヘ伏斫伏ヲ伏セ測
量術ヲ以テ暗夜ニ益下榴弾ヲ打發シテ攻撃
スルハイカンゾ彼ニ十分ノ働スナシム
ヘケンヤ戰場ノ一ハ古来兵家ノ説ノ如ク死
生ヲ一旦ニ争フナレハ我欲スル処敵決メ其
如クナシムヘカラサル也

一先制ト云フ兵法ノ眼目ナリ疑擬ト云フ兵ノ

大禁也。和漢共ニ勝敗ノ機コハニアリ。譬へハ
強敵攻来ルル。篁城セシカ。又打テ出テ戦シ
カト評議決シカヌル内ニ人ノ心區々ニナリ
雜説起リテ遂ニハ戦フコトラス。和ヲ乞フニ
至ル。呉ノ孫権カ阜シ斬テ戦ヒテ決スルヲ示
シ北條時宗カ元ノ使節ヲ誅メ寺備ヲ嚴ニシ
寇ヲ俟ツカ如キ皆智將ノ英断ニシテ士卒ノ心
ヲ一致セシムルノ策ナリ。譬へハ西賊ノ交易

ヲ乞カ如キ是ヲ許スオハ和ニシテ易シ許サハ
ルオハ戦ニシテ難シ。然レ氏和スレハ後ノ禍深
ニ其利害ヲ詳ニシテ是ヲ戦ノ一字ニ決シテ和
スルコトナキノ理ヲ天下ニ暴白シテ断然トシ
寇ヲ待ツ士卒ニ二念ナク賊ノ帆影ヲ見レハ
速ニ戦フ是先制ニシテ我ニ七分ノ勝氣アリ。又
合戦長引雌雄決セカレ時ニ敵ヨリ和ヲ入レ
或ハ雜説ヲ起シ奸人は乘ニ中間ニ居テ國

ヲ賣ル_レ其例多_シ朝鮮陣ノ時彼國ハ太平日
久クシテ上下驕侈武備怠リ_テ折柄ナレハ小
西行長ニ釜山海_ヲ一鼓ニ攻落サレ十一日
ニ王城_ヲモ落サレ粉ノ如クニ摧ケントシ夕
レ氏七年ノ久キ合戦ニ朝鮮_ノ君臣持コラヘ
テ和_ヲ乞フノ志一息モナ_レ然ルニ沈惟敬ト
行長ノ研計ニテ日本モ朝鮮モ賣レタリ沈惟
敬ハ是カ為ニ誅セラレ行長モ是カ禍ノ根ト

ナリテ刑ニアヘリ是モ亦商鑿トナスヘキナ
リ

跋論

漢土ノ史書_ヲ按スルニ海防ノ事歴代ノ
典冊ニ所見ナシ其海防ノ警備アリシ_ト
ハ明ノ嘉靖ノ初年ニ始マ_ルト云以上蔡氏ノ説
是本邦四國九州ノ海賊共年々彼國ニ押
渡リテ侵掠セ_レニ備ル_ル為ニ_テ海防纂要

海防集説紀功新書等ノ書アリ清ニ至テ
モマズク海備ヲ嚴ニシ廣治平畧防海固
編其他海防ノ書籍若干アリ予謂本邦ノ
海防ハ實ニ今日ヲ以テ創始トスヘシ文
化蝦夷ノ變有志ノ士ノ海防説アリトイ
ヘ氏當時未タ西洋ノ軍情ヲ詳ニセズ其
論概吾スル者多シ今日ニ至テハ西学大
ニ開ケ西洋兵書ヲ翻譯スル者數十百家

ニ下ラス彼カ軍情ヲ詳ニシ是ヲ我ニ用
ル片ハ所謂彼ヲ知り己ヲ知ル者ニシコ
、ニ至テ始テ具論ト云ハシ兵ヲ講スル
者宜ク彼我ヲ照考シテ時勢ニ的當ナル
モノヲ採テ用ニシテ要スヘシ予自ラ量
テス此篇ヲ編述シテ以テ世ニ示ス取捨
ハ其人ニアラシ而已

長山貫識

海防私議補遺卷下畢

